



### 2024-25年度 上田ロータリークラブ

- 会長 金子 良夫 ● 副会長 柳澤 雄次郎・三井 英和
- 幹事 酒巻 弘 ● 会報委員長 小林 浩太郎

## 第2962回例会 (令和6年10月21日)



ホームページQR

### [ゲスト紹介]

本日ゲストスピーチをお願いしていただいた神山監督です。私は神山監督とはとあるところで知り合いとなり、いろいろな話をしている中、今日のゲストスピーチに来ていただきたいというお願いをしましたら、快く引き受けていただきました。

内河 利夫さん



監督のプロフィール紹介は私がするより島田甲子雄さんが神山監督の映画で自宅など撮影を何回もしていてよく知ってるからということで島田さんをお願いいたしましたら、快く引き受けていただきました。島田さんよりご紹介お願いします。

島田 甲子雄さん



無理矢理やれというのでやります。冗談はさておきまして、それでは神山征二郎監督をご紹介申し上げます。

監督と私はもう35年ぐらいのお付き合いですけれども、昭和16年岐阜県のお生まれでございます。長和町に別荘をお持ちで、現在は上田市にお住まいでございます。日本大学芸術学部のご出身で、1971年「鯉のいる村」で監督デビューをされております。以後「ハチ公物語」「ひめゆりの塔」など他にも多数の作品がございます。上田で撮影してくださった作品が1995年「三たびの海峡」、それから2008年「ラストゲーム 最後の早慶戦」、それから2024年でまだ公開されておられませんけれども「シンペイ〜歌こそすべて」ということです。他にも何作品か手掛けておられますけれども、我が家もその三つの作品はロケに使っていただきました。簡単ですけれども以上でご紹介を終わります。

### [会長挨拶]

金子 良夫 会長



一昨日は原峠保養園を訪問しまして、20名のメンバーが集まり本当にありがとうございました。バーベキュー大会、アルティスタ浅間の選手をお迎えしてのサッカー教室を開催しました。そして、園からご要望があったビデオカメラ機材一式と急遽サッカーのゴールネット一式を贈呈してきました。サッカーゴールは以前に上田ロータリークラブで贈呈していますが、ネットがボロボロになっていまして、ご承知のとおり山の上にグラウンドあるのでボールがゴールの後ろに抜ける

と大変なことになるんです。これは私どもの責任において、高いものではありませんので後日お届けということでゴールネットを新調いたします。ビデオカメラに関しては、「子どもたちの姿を残したい」という寮の先生たちからの要望でした。私たちにも経験がありますが、特に最初の子どものなんか写真がすごく多かったりするわけですね。大事にされた子どもほど写真が残っているとされます。非行にも走らないと聞いたことがあります。考えてみれば園の子どもたちは親がいる子と比較すると子どもの頃の写真が残ってないんですね。原峠保養園の子どもたちにも写真を残してあげたいという寮からの希望は非常に理解できました。園を卒業するときに写真や映像を持たせてあげられればいいと思います。

サッカー教室は、アルティスタ浅間の選手のお子さんの扱いがうまくてですね、小さい子どもと大きい子どもに別れ、体育館でのミニサッカー、山の上のグラウンドでのサッカーと二班に分かれました。子どもたちの歓声が今でも心に残っています。

続いてのバーベキュー大会は、少し雨を心配したんですけども、内河さんの行いがよくて何とか持ちました。朝から5か所、炭起こしをして焼き肉15kg、焼きそば10kgを振舞って盛り上がりました。何でバーベキューかと申しますと、日々の給食は予算もないので毎日しっかりごはんが出るわけでもなくて、グラム数も全部決まっているようです。なかなかお肉を満足に食べることはないという状況のようですので、この日だけでもお腹いっぱいお肉を食べてもらいたいと思いました。子どもたちもとても満足な顔をしていました。そして一番喜ばれたのはお別れの時に「スナック菓子などの詰め合わせ」を子どもたちにプレゼントしたときでした。その時の子どもたちのうれしそうな顔が忘れられません。これもまた一般の家庭のように普段から買ってもらうという経験が少ないから、そんなことで喜びがあるのだと感激しました。こういうことは継続していてもいいし、それがまさしく国際ロータリーのアーチック会長の言う「ロータリーのマジック」なんだと我々メンバーが感じた時でした。訪問してよかったし、開催してよかったと感じました。20名というメンバーの方にお手伝いいただきましたが、キャパシティの関係上、全員にお声掛けができなかったことをお詫びいたします。これであれば全員で押しかけて、もっともっと盛り上げていければよかったと感じました。またそのような運営を心掛けてまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、本日は、神山征二郎監督をお迎えしています。以前、ふるさと、おぼろ月夜の作詞で有名な信州中野出身の高野辰之先生のお話をしました。私もどこかでわが信州、中野市出身の偉大な作曲家である中山晋平先生のことをお話ししたいなと思ってました。今日は神山監督の映画のお話もそうですし、中山晋平先生のお話も楽しみにしています。実は昨日、私は中山晋平さんについて調べておりました。そうしたら、同じ中野つながりで、中山晋平先生は東京中野区に住んでいたそうです。私は鍋屋横丁の出身なんですけれども、その中山晋平先生の住居跡と私の子どもの頃に数ヶ月仮住まいした場所とは目と鼻の先で、20メートルほどしか離れていなかったことがわかりました。それと中山晋平先生は、私の母校である中野本郷小学校の校歌も作曲していたことがわかりとても親しみを覚えました。今日は、監督のお話をとても楽しみにしています。

### [ゲストスピーチ]

### 映画監督 神山 征二郎様

どうもこんにちは。先ほどご紹介いただきました映画監督の神山でございます。私は長年映画の仕事をしておりますのでずっと東京にいたのですが、2年半ほど前に塩田の前山寺さんという真言宗のお寺の先代のご住職とご縁で親しくなりました。私は37、8年前になりますけれども長和町に別荘を構えておまして、温泉好きですから別所温泉や鹿教湯温泉や田沢温泉とか、そこら中いつも行ってたときに前山寺の前を通りますと、いいお寺だなと思って、お参りに行きました。その時にご住職と親しくなって「監督さんお墓を分譲しておりますが買いませんか」みたいなお勧めがあって、私は田舎の次男坊でしたから、自分のお墓はなかったんで、「あ、そうですね。ぼちぼち還暦だから、じゃ買いますよ」と言いました。お値段を聞いたら東京とかに比べると格段に値段が安かったもんですから「それぐらいなら私でも買えますから」と言って譲っていただきました。上田の大屋よりのところに大きな石屋さんがあって、昔からちょっと目をつけていた五輪のいいお墓がありまして、すぐにそれを買いました。お墓を譲っていただいたのはちょうど2003年でしたから、20年ぐらい前ですね。その縁で、近くの町っていうと上田市ですから、しょっちゅう温泉も来ましたが、街へ買い物に行ったり、星を見に行ったりとかよくしてたもんですからその縁で上田市と深い繋がりができました。

仕事が映画監督ですから、もちろん映画はいつも撮ってるんですけども、割合明治から大正・昭和・戦争時代までぐらいの題材が私は結構たくさん映画撮ってるんです。上田はご承知のようにお寺さんも含めて、それこそ田沢温泉の「ますや旅館」さんで、島崎藤村が小説を書いたと言われてるお部屋が残ってるぐらいの古い旅館や建物があったりします。商売柄とにかく古い物件を、何気なく車で走ってても「あそこに古い学校があるな」と思うのです。先年火事で燃えちゃいましたけど浦里小学校というのがありまして。あれを映画で初めて使ったのはこの私なんです。

私が発見して、それは田沢温泉などに行くときにいつも街道を通るときに見えるので古い学校のシーンが必要な時にお借りしました。それでこの小学校はなんでこの時代にあんな古いままなのかとすごい疑問に思いました。上田市は大きな市ですから、あんな古い学校があるのは不自然だと思いますよね。普通なら建て替えますから。校長先生に「どうしてでしょう？」って僕が伺ったら先生は「実は上田市は、この浦里小学校を

上田西小学校などの近くの大きい小学校と合併させたいと言っていたようです。しかし地元の方々が『伝統ある小学校なので合併は嫌だ』という意見が多く、それで上田市が建て替えの予算を出さないんで、学校が古いままなんです」という話を聞きました。

それは私にとっては大変好都合なことでした。古い校舎って他にも無くはないんですけど、大概窓がサッシになってたりするんです。我々は物事を再現する仕事ですから、サッシになってる場合はそこへまたいろんな木の柵をやったりして工作するんですけどね。それはほんの一例なんですけれども、仕事は映画を作る仕事ですから度々観光しながらそういう物件を探したりするんです。上田にも上田フィルムコミッションというエキストラ団体がございますけれども、多分フィルムコミッションの人より私の方が上田のことは詳しいです。どこにどういう通りがあるかわかってるわけですね。

今度、中山晋平さんの物語を「シンペイ〜歌こそすべて」という題名で11月22日から上田市はアリオのTOHOシネマズでスタートします。その映画の中にも、例えば私はいま常磐城3丁目のあたりにお家をお借りして住んでいますけれども、すぐ歩いて2、3分のところに「歴史の散歩道」というのがあります。皆さんのなかでも多分ご存知の方少ないと思いますが、ほんの幅2mぐらいの小さい通りなんです。何も直さなくてもすぐ明治時代になるような良い道がありまして。それも今度の映画でも主人公が歩きます。場面は東京の昔の牛込あたりなんですけれどもね。中山慎平さんが18歳で信州中野から音楽の勉強がしたくて東京に出た。とりあえず島村抱月さんという、当時早稲田大学のホープって言われるすごい先生だったらしいんですけど、そこへ縁があって書生に入るわけです。その島村抱月さんのお家の近くの道っていう設定でその「歴史の散歩道」を使いました。

その先に島村抱月邸があります。島村抱月さんという方は、本当にいろいろあって亡くなるわけですが、映画の中でその事情も出てきます。元々は島村姓ではありませんでした。山陰の島根のご出身なんですけれども、近隣に鳴り渡るぐらいの大秀才だったらしいんです。しかしお家がそれほど豊かなお家じゃありませんでした。何とかならないかと子供のときに島村家へ養子に入った方なんです。その島村家は大変な資産家・大金持ちで、養子に入った息子(抱月さん)を大正時代にイギリスとドイツに4年間留学させるくらい大資産家です。そして島村家のお嬢さんと結婚するわけです。島村抱月さんの実家自体は貧しいというより普通の家でそんな留学なんかとでもできる家じゃなかったんですけど、その恩があって、島村家のお嬢さんと結婚して東京で早稲田大学の教授をされるわけです。当時留学するために大変なお金がかかりますので、島村家に対して恩があって、島村家のお嬢さん、いわゆる奥さんにはなかなか頭が上がらない状態になったわけです。それが元で松代ご出身の松井直(まついすなお)さんという、当時人気を博した大女優と恋愛関係に陥ってるわけです。その辺も映画の中で少しやっていますけどね。

私の仕事は「モノを見て歩く」というか、今もここでご挨拶されてる方は何のお仕事をなさってるんだらうかとか、とにかく人の顔に穴が空くほど見る商売なんです。よくテレビ見ても、いろんなコメンテーターとか同じ人が何年も出演されて10年も20年も同じ人の顔を見てますと、もちろん徐々に年取っていきますよね。それでテレビ見てるだけなんですけれども。「あれ、この人、体調悪そうだな」って思っていると

1年後ぐらいに亡くなったりするんですよ。とにかくいやらしい位にヒトやモノを観察する商売です。私は30歳のときに監督になっていまして、昭和16年生まれですからもう83歳になってるんです。53年間そんなことばかりやっています。

私は岐阜市の一番外れの農村で生まれてまして、しかも次男坊で後は継げませんから「とにかく好きなことをして生きていこう」と思っていました。中学生から高校生ぐらいの頃は日本映画の全盛期でありまして、もう映画作りを3日やったらやめられないぐらい儲かった時代だそうです。これは私の先輩から話を聞いてるだけなんですけどね。そのころの映画との関りは、田舎ですから映画館もありませんし、大して映画見てないんです。「鞍馬天狗」とかチャンバラみたいなことばかりやりました。なんかヒーローがいて、敵が30人ぐらいずっと取り囲んで1人で全部やっつけちゃうみたいな映画ばかり行ってました。しかし子供心に「それは1人で30人を切れるわけないよ」って思っていました。だからすごい冷めた子供だったんです。「後ろから切ればいいじゃないか」って思っていました。だから映画はけっして好きじゃなかったんですが、非常に景気のいい業界だったことも知っていました。

中山晋平さんは歌を作る方ですけども、私は歌がとっても好きです。中学校3年生のときに親戚のおじさんに勧められて、街で大人たちが出るのど自慢大会がありまして、私が歌好きだということをおじさんはよく知っていましたから勝手に応募してまして、それで出演して実は準優勝したこともあるんです。皆さんよりちょっと私の方が年配ですから、時代が違いますけれども、春日八郎さんと三橋美智也さんが全盛期でした。このお2人の歌は大体1回聞けば覚えちゃうぐらい絶対音感がありました。音楽は好きですね。それこそ中山晋平さんのことももちろん知ってましたけども、中山晋平さんは私からするともうかなり古い時代の作曲家です。「船頭小唄」ももちろん知ってました。中山晋平さんの歌を歌ってたっていうわけじゃないんですけど。これも20年ぐらい前ですが東京の吉祥寺に住んでいたとき古本屋で見つけた「カチューシャ可愛や」という山本茂実さんが書かれた本がありました。山本さんは松本の御出身だと思いますが「あゝ野麦峠」というドキュメンタリーも書かれて、映画にもなりまして大ヒットしたんです。これは中山晋平さんの本だと思って古本屋で買いました。それで初めて中野慎平さんのことが詳しくわかりました。

その頃はもう私は映画監督していて、働き盛りでした。本当に寝る暇もないぐらい映画作りしてたんですけども、いつか中山晋平さんのことはやりたいなと思ってました。映画というと他の小説書いたりなんかと違って、ものすごくお金がかかる文化です。映画監督がやりたくてできるってことはほとんどないですね。「ハチ公物語」はもう40年ぐらい前ですけども、大ヒット作をやったことがあるんです。それは別に私がやりたくてやった訳では全然ないんです。正直言って製作会社から「高倉健」さんが主演された「南極物語」という映画が大ヒットしたから「どうも『犬モノ』はいいぞ」って、儲かるぞってことのようにです。映画会社だから儲けたいのは当たり前ですけど。それで「渋谷のハチ公がいい」ということをプロデューサーが考えて、ハチ公の飼い主は東大の先生なんですけども、その役は当時実力No.1「仲代達矢」さんがいいだろうみたいな。奥さんも重要な役ですから「八千草薫」さんがいいだろう。その辺が全部決まって、もちろん監督決めなきゃいけないから多分重役会議を開いて決めたと思うんです。その頃私は仕事をたくさんしてましたので「あいつが良からう」ということで私の

ところへ夜中の9時頃、若いプロデューサーから「ハチ公物語監督してくれますか」と来ました。私は6歳のときに近所の犬にスネを噛まれてまして、犬が嫌いというか、もう怖いんですよ。だから犬は全然好きじゃなかったんですけども松竹の社運をかけたような大きな企画ですから「喜んでやります」って嘘ついて、やった結果が大ヒットですね。私が良かったのか、企画が良かったのか、すごいかわいらしいポスターのおかげなのかわかりません。もうとにかく今は「立ち見」って映画館では許されませんが、2時間1回分ぐらい並ばないと入れないくらいお客さん入ったんです。その1作だけで私は松竹に25億円ぐらい儲けさせてます。私が1人で儲けさせたわけじゃないんですけども、映画というのはそういうことがありましたね。それでも監督という職業はやりたくてできるものじゃないんです。

中山晋平さんはさっきも言いましたように、ご出身は信州中野の田舎です。実は映画の中でその事情ができますけど、元々はすごい名門のようです。群馬に中山城という今でも跡が残ってるんですけど、ご先祖はお城のお殿様だったんです。それで戦国時代ですから、チャンチャンバラバラやって、多分負けたんでしょうけども信州中野に落ち延びたというかな、そして中山家はそこで居付くわけですよ。元々は大名門ですから今でもご実家が残ってますけども立派なおうちです。運悪くお父様が40歳ぐらいに病気で亡くなられて、お母さんが1人で4人の男の子を育てなきゃいけないことになりました。お母さんも山田家という超名門のお家で、その時に山田家の当主が、「山田家の血が流れたものは、特に男子が学校行かないってことは絶対できないから、必ず学校にやらなきゃいけない。だけどお前、百姓やってて女手一つでとても4人の子供は学校には出せない。4人の子供は親戚でそれぞれ預かって育てて学問をさせるから、お前は中山家を離縁して山田家へ戻ってこい」っていうそのシーンも映画の中に出てきます。でもお母さんは「それでは夫や中山家に対して面目が立たない」と言うので「私は石にかじりついてでも4人の子供を育てます」と言って育てた子のお1人が中山晋平さんなんです。3番目のお子さんなんです。案の定、彼を小学校の4年間には行ったんですけど、高等小学校へ行かせるのは無理でした。小諸の呉服屋さんで今でもその呉服屋さん残ってますけども丁稚奉公に行くんですね。しかし中山晋平さんもそれなりの人物で、呉服屋の丁稚奉公で一生は過ごせないと多分内心想ったんでしょうね。ちょっとお腹が痛い、ちょっと体調悪いのでお家に帰らせてください」と言って、嘘ついて、仮病で小諸の呉服屋さんから抜け出してお母さんと一緒に暮らすという頭のいい方でした。ですのですぐに代用教員みたいなことまでやるようになりました。それで縁があって最初に申し上げた島村家へ行って、それで音楽の勉強をして、最初に「カチューシャ可愛や」という歌をやったんですけども、それが運良く大ヒットしました。私もさっき言いましたがとても歌が好きだったので「中山晋平やりたいな」って20年以上前からかもしれないんですけど、ずっと思っていました。たまたま縁あって、私は日本大学・芸術学部・映画学科・監督コースへ入りました。なので本当をいいますと18歳から監督の勉強ばかりしてるんです。日本大学は中退してますけども、4年間行ってました。それでそのときにちょうど映画は大不況が来てました。例えば松竹とか東宝さんも年間延べ14億人位いた日本の映画観客があつという間に10分の1になるんですよ。1億3000万ぐらいに。どんなご商売だってお客さんが10分の1になれば大体はお店を終うことになるん

です。そんな中で監督になる道が全くなって、若い時はちょっと苦労したんです。そんななか私は運が良く、例えば「ハチ公物語」とか東宝でいますと「ひめゆりの塔」というのをやらせてもらいました。つまり会社が社運をかけるようなお仕事もさせてもらえるようになりました。そして今回は31作目ぐらいなんですけども念願叶って「中山晋平さんの生涯」を描く映画ができました。

今日はもっといっぱいお話したくて、為になる話もちょっと用意してたんですけどもやっぱり時間内ではとても無理ですね。11月22日から上田のTOHOシネマズで、多分年内ぐらいロングランやと思います。今日も土屋市長が先ほどいらっしやってきましたけど皆さんにご協力いただいていますので、多分ヒットするんじゃないかと思ってます。今日おられる皆様方におかれましても、またご家族様も見ていただきたいです。私の映画は誰でも見れるというのが特徴なんです。小学生で見れますし、私ぐらいの年配な者でも見れますし、若い方でも見れます。そういうタイプの映画ですのでお誘い合わせの上、ぜひ中山晋平の物語、信州中野の代表的な文化人・大先輩ですから、よろしくお引き立ていただくようお願いしまして時間がまいましたのでこれで今日は終わります。ありがとうございました。

**【幹事報告】**

酒巻 弘 幹事

1. 米山奨学会 ハイライトよねやま 295号
2. 地区事務所  
第16回ロータリー韓日親善会議のご案内  
2024-2025年度地区大会「会長・幹事会」開催のご案内  
「地区大会信任状」提出のお願い  
10月度定例委員会議事録  
地区大会における「夢に実現プロジェクト」(小学生対象青年奉仕事業)パネル展示について  
コーディネーターニュース11月号
3. 東信ジャーナル  
ガールスカウト・ボーイスカウト賛助金上田RC
4. 上田市消防団 上田市消防団音楽隊 第19回定期演奏会の開催について(ご案内)
5. 例会変更 軽井沢RC 10月28日(月) 定受なし  
11月25日(月) 定受なし  
上田西RC 11月14日(木) 定受なし  
21日(木) 定受なし  
28日(木) 定受なし  
12月19日(木) 定受なし  
26日(木) 定受なし  
令和7年1月2日(木) 定受なし  
16日(木) 定受なし  
30日(木) 定受なし
6. 会報恵送 東近江RC、飯田南RC



**【ニコニコBOX】**

田中 克明 委員長

飯島幸宏さん 石井慧人さん 出田行徳さん  
伊藤典夫さん 内河利夫さん 小熊直人さん  
金子良夫さん 柄澤章司さん 北村修一さん  
窪田秀徳さん 桑澤俊恵さん 桑原茂実さん  
小松佳樹さん 小山宏幸さん 斉藤達也さん 酒巻弘さん  
佐藤倫さん 滋野真さん 島田甲子雄さん 島田太一さん 春原宏紀さん 関啓治さん 関勇治さん 瀧澤亮介さん 田中克明さん 田邊利江子さん 土屋勝浩さん 土屋陽一さん 成澤厚さん 林秀樹さん 比田井美恵さん 布施修一郎さん 保科茂久さん 三井英和さん 矢島康夫さん 柳澤雄次郎さん 横沢泰男さん



本日喜投額 37名 ¥ 52,000  
累計 ¥625,500

**【例会の記録】**

司会：保科 茂久 会場・出席委員

斉唱：「四季の歌 秋」斉唱

- ゲスト紹介 映画監督 神山征二郎様 ●会長挨拶
- 幹事報告 ●ゲストスピーチ 映画監督 神山征二郎様

**【ラッキー賞】**

島田甲子雄さん(柳澤雄次郎さんより 寅屋の羊羹)  
成澤 厚さん(柳澤雄次郎さんより 寅屋の羊羹)  
春原 宏紀さん(滋野真さんより 雪中梅)  
布施修一郎さん(上島孝雄さんより 埼玉県上尾市のお土産 お酒)  
神山征二郎さん(三井英和さんより 信州上田の清酒セット)

**【出席報告】**

保科 茂久 委員長



	本日	前々回(9/30)
会 員 数	52	52
出席ベース	51	50
出席者数	47	41
出席免除(b) ( )内は出席者数	4(3)	4(2)
出席免除(a)	0	0
メイクアップ ( )内はMake up後		1(42)
出席率	92.16	86.00

**【次回例会予定】**

11月18日(月) 上田RC創立記念日 夜間例会

(10月28日発行)

【会報担当】瀧澤 亮介 会報委員

★ 令和6年 ★  
**10月20日(日)**  
大浅間ゴルフクラブ  
上田・丸子ロータリークラブ  
**合同ホームコンパ**

社会奉仕活動 令和6年10月19日(土)  
**森の家はらとおげ様訪問**

アルティスタ浅間の選手による  
サッカー教室  
バーベキュー